



山村美咲子
議員

支えあう地域社会づくり について

問 一人ひとりの安全のために、高齢者や弱い立場の人を孤立させない、支えあう地域社会を構築し、住民が輝く社会を願います。

①高齢者の地域見守りネットワークの強化や高齢者の地域における外出・買い物などの生活支援サービスの充実について

②児童虐待・DV・うつ病など弱い立場の人に手を尽くす地域づくり

③ニート・引きこもりなどの若者を総合的に支援する体制の強化について

平岡町長 ①高齢者施策として、「軽度生活援助事業」や「食の自立支援事業」を実施。「緊急通報システム利用事業」として安心して毎日を暮らせるようサポートしている。

②初期段階から関わりを持ち、その方の事情と経過に適した指導と相談を行っている。地域の見守り力を高めていく必要がある。

③さまざまな支援機関と連携し、横

につながる統一した支援体制の充実を図る。

がん検診受診率向上対策 について

問 公明党の主導で成立した「がん対策基本法」と「がん対策推進基本計画」によって、日本は「がん対策先進国」へと転換した。

①乳がん・子宮頸がんの無料クーポン導入により、受診者数の推移、がん発見率にどのよう貢献しているのか。

②子宮頸がん予防ワクチンの接種について、町民が安心して接種できるように安全性や有効性などの正しい情報の啓発が必要であり、その取り組みは。

③受診率50%をめざした取り組みは。

平岡町長 ①乳がん検診は、平成20年度324人から平成21年度682人と約2倍。子宮頸がんは273人から683人と約2.5倍に増えている。

②1月に公開講座を開催。2月末に高校1年生には個人通知、中学生には中学校を通じて、ワクチンの効果や接種方法等を知り知らせ、過去に受診した方には、個人通知。

③広報やホームページで知らせ、過去に受診した方には、個人通知。



青木義勝
議員

防災のソフト面の取り組み

問 私も防災士となったので以下の質問をします。①防災士の現在の人数。町の全額負担での養成講座の今後の開講計画。目標の人員数。活用は。

②注意報、警報の発令時の小・中学校の登下校の実施の現状とその対応は。避難所に指定されている学校から帰宅させるのは危険と思うがどうか。

平岡町長 ①平成22年12月末で町民46名、職員8名。現在71名が資格取得予定。23年度も100名養成予定。

防災士に研修を重ねていただき、組織づくりをする。②具体的なマニュアルはカラーで配布している。下校については先生が先にパトロールをして安全を確認する。保護者個人との連絡を密にしている。留守の時は学校で預かる。

介護支援ボランティア制 度の提案

問 厚生労働省の認可を受けた有償



ボランティア制度で2007年5月に導入が決定され、同年9月より運用開始し、市町村が原則65才以上の高齢者が特養老人ホーム等の高齢者施設で配膳の手伝いや話し相手等のボランティア活動を行うとポイントをもらせる。貯めたポイントを現金などに交換することで結果的に介護保険料の負担が軽減されるしくみであり、本町でも介護保険事業の将来に対する対策として一考すべきと思うが。

平岡町長 地域活動への意欲を向上させ、社会への関わりを持つことにより、介護予防に繋がる効果がある。本町の介護保険事業計画等策定委員会に提案をして、十分研究をする。